

茶産地のGAP認証取得支援

要約

- ・リーフ茶需要の低迷により荒茶価格は下落傾向にあり、市場ニーズに応じた生産が不可欠。
- ・茶仕入れ業者からの要望があり、GAP認証取得を推進。
- ・GAPの認証取得が進展（JGAP認証圃場率40%）。また、輸出対応可能なGAPを目指すASIAGAP認証も3工場が取得。

現状(背景)と課題

- ・リーフ茶需要の低迷による荒茶価格低迷
- ・市場ニーズの高い茶の生産が必須
- ・JGAP認証取得工場 年度当初6工場
- ・うちASIAGAP認証取得工場 0工場
- ・管内におけるGAP認証圃場比率 年度当初 36%



目標

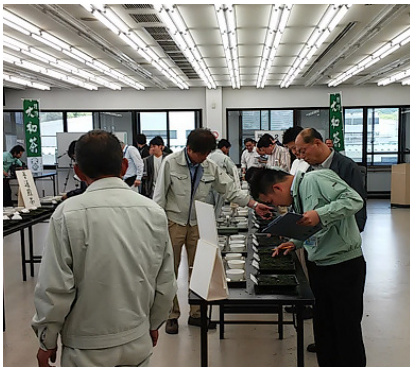
- ・JGAP認証取得工場 7工場
- ・うちASIAGAP認証取得工場 3工場
- ・管内におけるGAP認証圃場比率 45%以上

活動内容

- ・GAP取得に向けての個別指導
- ・GAP取得、整備のための事例集作成

成果

- ・JGAP取得マニュアルの整備、個別指導などにより、GAP認証工場が7工場となり、管内の主要な工場は個人工場の数軒を除いて取得し、ASIAGAPへの更新も進んでいる。



入札販売会に出品されたJGAP認証茶



個別指導

普及活動のポイント

- ・普及指導員が実際のGAP審査に同席し、指導力を向上。
- ・審査時の指摘事項を整理し、他生産者へ情報提供することでスムーズに認証取得。
- ・新規の認証取得希望者に対して、農協、普及指導員が協力して指導。

対象の変化

- ・取り組む前は、点検項目が多く、事務量も多いことからGAPの認証取得は困難であると思われたが、茶商社の強い要望もあって、現在は茶生産には必要なもののひとつとして認識され、県内産地の主要な生産者のほとんどが取り組んでいる。

対象者からのコメント

- ・GAP認証取得は、商社側の要望としてもこれまで以上に高く、産地も輸出対応可能な茶生産をすすめているため、今後必要となる。

これからの活動ビジョン

- ・ASIA GAPに更新するため、個別指導をすすめるとともに、GAP認証の維持に関わる事務量軽減のための支援ツール導入を検討。

活動体制



用語解説

GAP

農業生産工程管理 (Good Agricultural Practice) の略。生産者が栽培から出荷までに守るべき法令などのルールに従って、記録・点検・評価を実施し、「安全な農産物の供給」「環境の保全」「働く人の安全確保」に配慮して農業生産を行うこと。GAPの実施は、生産管理におけるリスク管理の意識が高まり、安心・安全な農産物の消費者への提供、農業人材の育成、我が国農業の国際競争力強化にも有効。